

生涯発達心理学第8回のまとめ課題です。授業終了後から次回授業の前日までに受験してください。受験回数は1回のみです。

### 問題 1 (11 点)

空欄に適切な語を入れなさい。数字は半角文字を使用しなさい。

児童期には頭が大きくなく、しまりのある体型へと発達するとともに、筋肉と骨格、神経系も発達、これらが協応することで、運動の持続性や正確性、安定性や繊細さが見られるようになる。

運動機能の発達はおもちゃの性格や社会性の発達にも影響を及ぼし、運動発達が十分でないと、小学校の集団生活にも適応できない状況が生じる場合もある。

岡本は書き言葉が導入されてからの書き言葉と話し言葉を「2次的言葉」、それ以前の話し言葉を「1次的言葉」として2次的言葉の出現で1次的言葉が終わるのではなく2次的言葉に影響されて1次的言葉が変容することを提唱した。

カウンティングの原理の「安定順序の原理」とは一定の順序で数詞をいうことを指し、「基数の原理」とは数えて最後の数が全体の数を表すことを意味している。

児童期はピアジェの認知発達理論の具体的操作期にあたり、それまでの自己中心的な思考の仕方から脱却して、具体物に対して可塑性や保存の概念が確立する。

コールバーグは道徳性判断の発達を6段階で示した。それは、1.「罪と服従」、2.「道具的目的と交換」、3.「対人期待、対人関係、同調」、4.「社会システムと良心維持」、5.「権利と社会的契約」、6.「普遍的倫理原理」である。

子どもは学校では、学校の習慣や規則に従い、約束を守ることを強いられる。また、教師からは能力や知識、人格、情動、価値観などの影響を受ける。

児童期中期は、行動範囲も広がり、友だち付き合いも多くなって、グループ意識や連帯感も育つ。この時期の形成される凝集性が高く、閉鎖的な集団をギャングエイジ集団という。

テストを提出